

第64回日本医学検査学会への期待



一般社団法人日本臨床衛生検査技師会

会長 宮島 喜文

本学会が一般社団法人佐賀県臨床検査技師会の百田浩志会長の下で、メインテーマを「SAGA 創 未来 (さがそうみらい)」, サブテーマは「時代が求める風になれ」として盛会に開催されますことをお慶び申し上げます。

また、会員の皆様には、日頃から一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（以下、「日臨技」と省略）の活動につきましてご協力を賜り、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、私たち臨床検査技師を取り巻く環境として、少子・超高齢化への対策、経済成長戦略としての規制緩和、医療のグローバル化といった大波が押し寄せています。特に、規制緩和などでは、戦後に築いた制度や権利が除かれ、いままでの価値観が簡単に崩れさる状況にも直面しています。臨床検査と臨床検査技師が永遠に安泰である、との保証は全く見出せない現実にあることを認識していなければいけない時代になっています。サブテーマの熱いメッセージが示す通り、本学会にはこうした状況を真正面から見据えた内容が盛り込まれていると感じます。本学会を学びの場として位置づけて、ぜひとも多くの会員の皆様にご参加いただければ幸いです。

佐賀県臨床検査技師会は会員数約 300 名という体制で、今般、本学会を担当され、また、学会参加会員の便も考慮して会場は隣県の福岡県福岡市に設定されました。ご苦勞を察するとともに、深く敬意を表したいと存じます。佐賀県は役員に占める女性比率が過半数を超えたと報告を受けたのは、昨年、第 63 回医学検査学会場でのことでありますが、新鮮な記憶として残っております。時代の要請にもきちんと答えを出していくという姿勢を感じた次第です。

日臨技の学術活動としては、昨年同様に先進的・先駆的な医学・検査技術などを学ぶセミナー等を開催してまいります。また、「医学検査」、出版、各種認定制度の充実に取り組み、生涯教育制度見直しも着手しています。さらには、来年の第 65 回学会と同時に開催となる第 32 回 IFBLS 世界医学検査学会に向けて、準備を進めています。

また、法改正に伴う検体採取業務の厚生労働省指定講習会を積極的に開催して、会員の皆様の技師国家資格が担保されるように取り組み、チーム医療への参画への推進を図っているところです。

最後になりますが、「学問に国境はない、されど、国籍は日臨技にあれ」との下で、本学会が会員相互の交流を進め、今後の学術的な研究や業務改善に繋がることを祈念いたします。